

平成 27 年度文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」

みやぎ・せんだい協働教育基盤による  
地域高度人材の育成

## 2018 年度 外部評価報告書

2019 年 8 月

外部評価委員会

## 2018 年度事業に対する外部評価 実施概要

### 外部評価の目的

文部科学省が実施する COC+の趣旨及び申請計画に基づき事業を遂行するにあたり、着実な事業の進捗を測るため、毎年度、「自己点検・評価」を行い、加えて「外部評価」を実施する。

まず、「自己点検・評価」は、地域協働教育推進機構会議、機構運営会議及び部会ごとに当初（申請書上及び当該年度）の目標値及び進捗状況に関する事実を確認し、その結果、どのような成果（良否問わず）が生じたのかを自己点検・評価した上で、今後の取組方策を主観的に改善するものとなる。

一方、「外部評価」は、本事業の取組みについて、事業協働機関ではない方々から、地域が求めている取組み内容になっているかどうか客観的に評価を行っていただくものとなる。

これらの「自己点検・評価」及び「外部評価」で指摘された各事項については、以降の取組みに反映させていくこととし、より地域から求められる事業となることを目指すものである。加えて、評価結果を公表することによって、本事業の取組みについて文部科学省をはじめ、広く社会に対する説明責任を果たすことも目的として挙げられる。

### 実施方法

COC+で実施する 2018 年度事業に対する「外部評価」は、自己点検・評価を含めた「2018 年度事業報告書」による「書面評価」の他、外部評価委員会時における質疑応答による「面接評価」とする。

なお、「外部評価」においては、これら「書面評価」及び「面接評価」を行った後、指摘事項をまとめた外部評価報告書を作成し、広く社会に対して公開する。

### 実施日時・場所

- ・実施日時：2019 年 7 月 25 日（木）13 時 55 分から 15 時 19 分
- ・実施場所：東北学院大学土樋キャンパス本館（2 階）会議室

### 外部評価委員

職 位	所属機関	所属部署	職名	氏 名
委員長	宮城大学	食産業学群	教授	郷 古 雅 春
委 員	東北経済産業局	産業人材政策室	室長	安 藤 智 広
委 員	宮城労働局	職業安定課	課長	厩 岩 俊 明

## 2018 年度事業に対する外部評価 委員講評

### 事業全体に関する講評

- 郷古委員長：**・構成大学が多く調整の労力等も多いと想定される中、また、各々独自のキャリア支援、企業との連携等を進めている中で、構成大学間の横断的連携や各大学のノウハウを共有しようとする取組は、地方創生の視点からも評価できる。
- ・定量的目標の実績が目標を下回っているが、2018 年－2019 年の状況では、履修学生の大幅な増加など、改善が見られていることがわかった。一方で、教育の質の確保の視点からは、適正な履修者数について検討を進めていく必要がある。
  - ・地元企業の魅力を発見し紹介していく取組は特筆に値するものであり、学生、大学、地域、企業が互いに win-win になるような継続的な取り組みを期待する。
  - ・補助事業終了後、本事業で得られた成果をどのように承継していくかについて、継続して検討されることを期待する。
- 安藤委員：**・2019 年度が最終事業年度となるが、2018 年度は自走化に向けた事業展開が図られたものと評価する。
- ・他大学と連携し、実効性の高い教育プログラムを互いに共有、実践していることを高く評価する。各大学が専門性を活かしつつ連携して地域課題解決を見出すプロセスは、地域での高度人材育成に高い効果があると思われる。今後もこの連携が維持、発展されることを期待する。
  - ・全体での事業協働地域就職率は目標を下回ったものの、COC+大学としては目標を上回っており、事業の成果が得られている。地域就職率が少しでも上がっていくよう、引き続きの取り組みを進めるようお願いする。
  - ・運営会議での情報共有により、各部会の連携がうまく進んできていると思われる。
- 梶岩委員：**・雇用情勢が改善する中、多くの業種で人材が不足する状況がみられ、とりわけ新規学卒者等の若年者に対する採用ニーズが高まっている。学生からみれば売り手市場となり、就職環境が改善される一方で、企業の側では学生の大手志向等もあり、中小企業では採用難の状況が顕著となっている。
- ・本事業は、企業の担い手となる人材育成が行われるとともに、プログラムに参画した学生の地元企業への関心を高め、インターンシップや地元企業と連携した取り組み等によりマッチングに繋げるものとなっている。補助期間終了後においても、地域就職率の更なる向上と地元中小企業への就職促進が図られることを期待したい。

## 1. 教育カリキュラムの構築・実施

**郷古委員長：**・学修成果を具体的に評価し、継続的に改善していることは評価できる。部会等の実施体制についても合同開催による連携強化など柔軟に見直し等を行い改善に努めており、評価できる。2018年度において一部科目が必修化されたこともあり、履修者数が大幅に増加しているが、教育の質の確保や運営を含めた持続可能性の視点からは、適正な履修者数を検討していく必要がある。

**安藤委員：**・「地域の課題Ⅰ」、「地域の課題Ⅱ」、「地域課題演習」は企業経営を具体的に学べる良い機会となる。企業経営者の目線を理解しつつ取り組んでいただきたい。  
・企業の課題は地域、業種によりさまざまである。県外の地域や、サービス業以外の多様な業種にも取り組んでいただけることを期待する。

**梶岩委員：**・「地域の課題Ⅰ」、「地域の課題Ⅱ」については、科目説明会及び受講勸奨等の取組により、履修者数の実績が向上している。2019年度においても、「地域の課題Ⅱ」及び「地域課題演習」について、履修者数が大きく増加しており、定量的事業目標達成に向けた課題解決の取組が着実に行われている点は評価できる。一方で、量的目標を意識するあまり、授業の質が低下することのないよう指導体制等を考慮しながら取り組むことも必要と考える。

## 2. キャリア支援の実施

**郷古委員長：**・宮城の企業発見プログラム、地元企業魅力発信のイベント、グループディスカッション実践講座は、学生への事前事後研修や企業へのフィードバックが組み込まれているなど、周到に検討されたプログラムとなっており、評価できる。また、仙台市が中心となり実施している WISE の取り組みは地元企業の魅力を学生自らが取材し発見・発信するものであり、特筆できる。引き続きこれらの活動の継続を期待する。

**安藤委員：**・企業と大学がつながりを持てる良い機会にもなることから、なるべく多くの企業経営者に参加いただけるようお願いする。

**梶岩委員：**・企業情報を発信する取り組みやキャリア支援セミナー等において、県内にも魅力ある企業が数多くあることを学生に知ってもらい、学生の地元企業への関心が高まるよう取り組まれない。

### 3. FD/SD の取り組み

**郷古委員長：**・2018年度まで延べ50回、468名の参加者があり、テーマも的確に設定されている。一方で、参加の度合いの少ない大学等もあり、より一層の横断的連携に努められたい。

**安藤委員：**・受講者が多くなっているが、研修で得た内容の取り入れ、実践が進んでいるか注視していただきたい。また、今後取り入れる予定は無いとお答えになった方の理由の把握と、実践に向けてのフォローアップ研修なども検討していただきたい。

**帛岩委員：**・計画的な取り組みにより研修受講者数も増加しており、事業に参加したすべての高等教育機関に認定コーディネーターが養成された点も評価できる。FD/SD研修の実践状況等を踏まえ、研修内容の活用が積極的に行われるよう取り組まれたい。

### 4. 情報発信、自己点検・評価、外部評価の取り組み

**郷古委員長：**・Webサイトによる発信、シンポジウムの開催、自己点検、外部評価とも、概ね適正に行われている。

**安藤委員：**・Webサイトやニュースレターはどのような方が閲覧しているのか。例えばインターンシップを経験した学生の声を掲載するなど、企業経営者と大学をつなぐ工夫を期待する。

以 上